森の風わたる♪ 久々場連山マップ

土阿国境の尾根は行者山～四足峠-石山-剣山系～三嶺につながる。2016年に古井にあらわれたツキノワグマも、この尾根を通ってきたにちがいない。

「へち」とは土佐弁で目的方向でないこと

神々しさを覚えるほどの手つかずのブナ林

徳島県那賀町

駒背山 1311m

ブナの白い森は明るい

うんせ。うんせ キツイけど なんだか たのしい急坂

登山口より約1時間

急坂

人工林

夏部

4WD

急坂

駒瀬越トネル

人工林

展望ひろがる

こちらへは行かれん

草場

スギ人工林の中

道がわかりにくい

汗谷向山より太助山

トンネル

太助山

夏部

剣山系 緑の回廊

固有林の境界標目印

汗谷向山国有林

ちょっとした岩場

高ノ河山 1364m

高ノ河～西又山 約1時間

西又山へ

険しいが西又山へ登山可。

若い植林地 シカネット

冬でも枯れない

汗谷

ブナ

登山口の谷川の水がとても旨い。ブナ林の中を流れている水。水がブナの中をめぐり山が磨き、養分を含んでおいしく感じるのかもしれない。一飲の価値あり

登山口 WC

天地の恵み うまい水

駒背山 1311m

ブナの大木に出会う。何百年ものあいだ一歩も動かず たゆまず、怠らず あせらず ゆっくりと根をはりつづけている。自分はどうか？まだまだ足りない。

絶えず天へ向かって伸びようとするブナ。尊い姿だ。

ブナとヒメシャラの森の風がわたる

森の貴婦人 ヒメシャラ

ほぼ平坦

一升ビンと血が散乱

一部不明瞭

アセビ群

夏注意

黒いカモシカに出会ったら化かされて道をまちがう

ブナ ヒメシャラ リョウブなどの天然林の中をのぼるほどに快感。

人工林 ヒノキ

境界標を目印にすると迷うことはない。安心の道標。

天然林

歩道は荒れている。上りはなんとかわかるが、下りは道を見おとしやすい。特に下りは要注意。

木々や草や石や土やこの森のすべてと呼吸を合わせることができたなら、どんなに気持ちがいいことだろう。

岩・木・倒木など自然の造形を道標としてよく覚えておこう。

安芸市最奥 万緑の山中に深く分け入る

春夏秋冬 季節はめぐり 迎えては見送る。人の社会で時間は流れてしまうが、森の中で時間はめぐり、冬を越えて春になる。すると樹木には年輪という森の命の輪が刻まれる。

シカの姿も多い

横生えヒノキ

分水嶺を実感 ヤセ尾根

尾根に上って山頂まで約1時間30分

香美市

安芸市

土居山

マキ

久々場山 1417m

杉熊林道へ

空と南が開けて快適

木立ち越しに三嶺山系みえる

安芸市最高峰

グラッチェ

四根点（標15）

北面にはブナの天然林。南面は伊尾木川にそって杉谷、横尾方面高ノ河などの山並みが広がり太平洋まで一望できる。

久々場山をピークにゆるやかに連なる山々の姿はどこか女性的なやわらかさを感じさせる山並みである。香美市～那賀町～馬路村との境界であり伊尾木川と、物部川などとの水系を分かつ大きな分水嶺となっている。安芸市最奥の集落、別役をゆったりととり囲むおとずれる人はまずいない山でありながらその魅力は一登の価値ある山である。

久々場山 国有林（くくば・こくば）

国有林 境界標 久々場谷へ続く（1～75）

山に来た人の大半は無事に下山していくが、けれども山の危険度は絶対「0」ゼロにはならない。家の玄関に帰り着くまでは気を抜くなかれ。

久々場谷

ケケ山峯 ゆるやかな長い尾根。久々場小学校跡のあるトンネルの上あたりまでのびている。

スギ・ヒノキの人工林

帰り道はアクシデントが起こりやすい。帰りは特に急がないこと！

深い谷

シカの過剰生息による食害により木々も山も悲鳴をあげている。

久々場神社

ナカズ

久々場のかま 雨乞い伝説

シカは年15～20%程度で増加する。20%として人が何も対策をとらなければ100頭は20年後に3,200頭、30年後に2万頭、40年後に13万頭。おそろしくなる。

久々場林道（森林軌道の跡） 伊尾木まで7時間くらいかかったという。

伊尾木川に沿って奈比賀から別役までの旧東川村は安芸市の面積の52%を占めている。

土居

県内自治体の中で市街地から最も遠い集落ではないだろうか。国道55号分岐より約1時間半。

まるでV字の彫刻刀で一気に彫りこんだような地形。直線的な川に山や谷が切れ込み、急流が一気に海まで流れる。